

## 平成26年度第2回「学校関係者評価委員会」年度報告

### 1 概要

(1) 日程 3月9日(月) 15:30～16:40

(2) 場所 第二会議室

(3) 出席者

学校関係者評価委員 三田戸坂城山小学校校長

佐伯同窓会会長

平岡PTA会長

本校教職員

福原校長

岩本校長代理

藤田副校長

中川教頭

藤岡教務部長

下木進路指導部長

二宮総務部長

宮本生徒部長

渡辺国際理解教育部長

黒瀬保健部長

飯盛情報図書部長

亀田入試運営部長

### 2 内容

校長挨拶及び出席者の紹介に続いて、各部の所掌事項の中から改善すべき項目を中心に説明を行った。

(1) 総務部より

① 保護者との情報交換を通して、生徒の健全育成に努める。

(2) 教務部より

① 理数系教科の一層の学力の向上を図る。

(3) 生徒部より

① 登下校時のマナーアップについて

(4) 進路指導部より

- ① 旧帝大など難関大15名、広大30名、早慶上理50名、関関同立100名以上の合格実績を目指す。

(5) 国際理解教育部より

- ① 韓国語講座について

(6) 保健部より

- ① 生徒の心の発達及び不安・悩みへの対処法について検討する。

(7) 情報図書部より

- ① 図書館の活性化に向けて取り組む。

3 学校関係者評価委員からの意見及び助言

- ① 総務部長を中心とする取組が良い効果をもたらしており、PTAとしても学校の中の風通しがよくなった、という印象を持っている。
- ② 登下校時の指導で外部から苦情を受ける、ということ課題とされているようだが、これはある意味「しつけ」の問題でもあり、保護者の意識を喚起していかなければならないと思っている。時にはPTAの学年代表と先生方が意見交換をする場を持てたらと思っている。
- ③ 保護者はすべて学校の責任にする携行があるが、学校と協力して子どもたちを教育するのであって、学校だけの責任という考え方ではなく、親の意識も変えてくようなPTA活動の必要もあるように思う。
- ④ たまにバスを利用する機会があるが、後方で城北の生徒がさわがしくしていることが滅多にはないが、遭遇したことがあった。大人の責任として厳しく指導した。
- ⑤ マナーアップや人の迷惑になるような行為について、生徒の代表が全校生徒に訴えることを検討しているとのことだが、とても良い取組だと思う。
- ⑥ 韓国の学校との姉妹校縁組みは、なるほど国と国の関係は芳しくないことも報道されているが、民間レベル、生徒レベルでの交流はまた違う角度から成り立つものであって、是非とも未来志向で継続していただきたい。
- ⑦ 多くの取組を精力的に行っておられるが、子どもたちの中に自分たちの行動が評価されることもあるということ伝えることも大切である。例えば「男子力」という言葉がリーフレットの上に印刷されているが、男子力とはそもそもどういう意味なのか、といったことを考える時間を持ってよいのかな、と感じている。私が坂を登って来るときなど、立ち止まってき

ちんと挨拶をしてくれる生徒さんも少なくなく、そうした生徒の行動を評価している地域の人間もいるということを伝えてあげて欲しい。

- ⑧ また「このような人間になって欲しい」ということを、もっとオープンにして、褒めて育てるような取組が生徒たちにも自信をつけさせることに繋がるのではないか。
- ⑨ 未来を切り開く子どもを育てるには、城北はどのような力をつけたいのか、ということをもっと前面に押し出すほうが良いと思われる。
- ⑩ いわゆる「城北の生徒像」をもっとアピールしたらどうだろうか。
- ⑪ 国際交流として短期研修の生徒さんが小学校に来ていただいたが、言葉は伝わらなくてもジェスチャーでそれなりの交流を行うことができ、子どもたちもそのことがうれしくて、もっと本格的に英語を習ってみたいと思ったと思う。
- ⑫ 中学校入試の志願者数が減少したのは、何か特別な要因があったのだろうか。
- ⑬ 図書館の蔵書数が4万冊以上もあれば、もっと読書する機会をつくるような行事を持ったらどうか。秋の読書週間などには、読書感想文コンクールなどもあり、こうしたものを利用してみるのも読書の習慣を育てることに繋がることもある。